

ユニアデックス株式会社

VDIとSECUREMATRIXを組み合わせ 端末紛失リスクを解消 BYODも実現したユニアデックス

導入企業



ユニアデックス株式会社
<http://www.uniadex.co.jp/>

日本ユニシスグループにおいて総合ICTサポートサービスを担う、ユニアデックス株式会社。クラウドやモバイルなど最新技術を駆使し、多様なソリューションとサービスでIT活用を支援する。その活躍の場は学校、自治体、医療、交通、通信など、社会生活を支える幅広い分野に広がっている。



ユニアデックス株式会社
情報基盤推進部
ビジネス支援企画室
大岩 文泰氏



ユニアデックス株式会社
情報基盤推進部
ビジネス支援企画室
林 香織氏



ユニアデックス株式会社
サポートサービス事業本部
プラットフォームサポート統括部
仮想化サポート部
担当マネージャー
伴 昌憲氏



ユニアデックス株式会社
システムマネジメントサービス事業本部
インテグレーション技術統括部
セキュリティ技術部
第一課 主任
小宮山 智之氏

課題

- セキュリティの強固な認証によりデバイスを問わない安全な社内アクセスの確保
- 端末紛失に伴う情報消失リスクと、その際の紛失情報の調査工数の削減
- 数千人規模でも運用負荷が過大にならないセキュリティと運用性の両立

効果

- VMware Horizon ViewとSECUREMATRIXの組み合わせでBYODを実現
- ブラウザだけで利用できるSECUREMATRIXでデバイス選定の自由度を確保
- 事前の証明書インストールやトークンの紛失対策が不要で低負荷でセキュリティを担保

導入の経緯

ユニアデックスは、日本ユニシスグループの一員として様々なITサポートサービスを提供している。サポート依頼を受けてオンサイトで作業することも多いため、外出先でエンジニアを支援するシステムがこれまでに運用されていた。

「お客様のIT環境に関する情報を、現地で参照する必要があります。そのため、会社から配布した証明書をインストールしているPCからVPN接続でアクセスできるようにしていました」

証明書による十分なセキュリティとVPNアクセスによる情報参照は、構築当時の目的にはマッチしていたと、ユニアデックス株式会社 情報基盤推進部の大岩 文泰氏は語る。しかしワークスタイルが変わり、社外からの情報アクセスに求められる要件にも変化が起きた。中でも大きかったのは、デバイス

統制の在り方が変わったことだと大岩氏は言う。「より自由なワークスタイルを模索する上で、いつでもどこからでも安全に情報を参照できることがとても重要になります。それを実現するためには、BYODも視野に入れ、自由にデバイスを選べる情報アクセス環境を作る必要があります」

従来の環境では、配布する端末には暗号化処理が施されていたが、それでもPC紛失に伴うセキュリティリスクは存在した。読み取られる恐れは低いものの、端末紛失時に求められる紛失情報の調査には多大な工数を要していた。また、BYODを検討した場合、セキュリティ管理を徹底できない私物デバイスを、VPN接続によって社内ネットワークに接続することになるため、危険を感じていた。

導入決定のポイント

外出先での新たな情報アクセス手段としてユニアデックスを選んだのは、VMware Horizon Viewだった。画面転送型のVDI環境で、端末に情報を残すことなく社内のデータを参照できる点が高く評価された。ユニアデックス株式会社 サポートサービス事業本部の伴 昌憲氏は選定理由を語る。「端末に情報が残らないので、デバイス自体がセキュリティリスクになりません。デバイスを限定せず、社外からの情報アクセスが可能です」

組み合わせる認証製品の選定においても、自由なデバイスから利用できることが重視された。従来利用していた電子証明書は事前のインストールが必要で、利用できるデバイスが限定される。トークン型のワンタイムパスワードを使う方法もあるが、

必要なときにトークンを持ち歩いているとは限らないうえに、トークン管理が大きな負担になる恐れがあったと伴氏は振り返る。

「セキュリティ強化とは認証強化だけではなく、運用負荷がどれだけかかるかが大きなポイントになります。現実的な負荷で運用できなければ、セキュリティを維持できなくなるからです」

そこで目を付けたのが、デバイスフリーのマトリクス認証製品SECUREMATRIXだった。デバイスフリーの認証製品は他にもあるが、実績と運用管理面でSECUREMATRIXが抜きん出ている。また、バージョン3.8以降プラグインフリーになり、Webブラウザを搭載した幅広いデバイスで使えるようになったことも大きなポイントとなった。

